

島根・大婦け遺跡

おおぶ



(須佐)

大婦け遺跡は、津和野町木部地区にある南北約二・七kmの長野盆地中央部西辺に位置し、比高約二〇mの丘陵である鳶の子山南東麓にあたる。付近の字名「大婦け」は、強湿田を意味する。調査の結果、古代の水田遺構（畦畔、溝、杭列など）が検出され、包含層から多数の遺物が出土した。

出土遺物には、水田畦畔を構成する転用木製品、須恵器、土師器のほか、多數

- 1 所在地 島根県鹿足郡津和野町中川
- 2 調査期間 二〇〇五年（平17）八月～一二月
- 3 発掘機関 津和野町教育委員会
- 4 調査担当者 有馬啓介
- 5 遺跡の種類 水田跡
- 6 遺跡の年代 八世紀～九世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

大婦け遺跡は、津和野町木部地区にある南北約二・七kmの長野盆地中央部西辺に位置し、比高約二〇mの丘陵である鳶の子山南東麓

の鉱滓・輔羽口などがあり、近辺で古代に金属生産が行なわれていたと考えられる。また、特記すべき遺物として、鎧帶金具（銅製巡方）、木製下駄（未製品を含む）、墨書須恵器四点（うち一点は、「口」[家カ]「十」）が出土している。後述する木簡の出土も考慮すると、当遺跡は一般的な水田集落の縁辺ではなかつた可能性が高い。

木簡は、調査区北東部の水田遺構に関連する溝状遺構SD六から一点出土した。SD六の規模は、長さ四m以上、幅約〇・三五～一・〇五m、深さ約一二cmで、さらに調査区外の南東方向に続いている。木簡は、他の木製遺物と混在した状況で、溝上流部の上面付近から出土した。SD六からは八世紀頃の須恵器杯蓋が出土しており、遺構及び木簡の時期はこの頃と考えられる。

8 木簡の釈文・内容

(1) □供 物

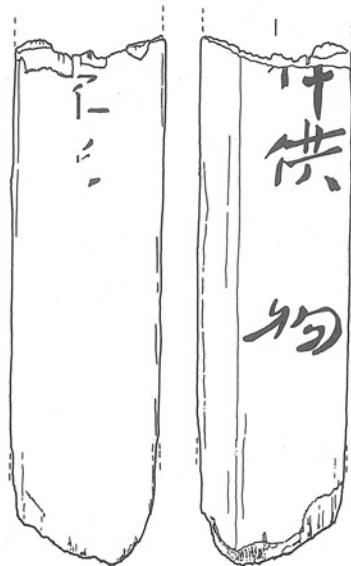


(157)×44×6 180

材質はスギで、上下を欠損している。墨書は表裏両面に見られるが、裏面は残存状況が不良である。

なお、木簡及び墨書須恵器の釈読にあたっては、島根県埋蔵文化財調査センターの平石充氏からご教示を得た。また、保存処理・樹種同定を株吉田生物研究所に委託した。

（宮田健一）



山口・周防国府跡

すおうこくふ

- | | |
|-----------------|-------------------------|
| 所在地 | 山口県防府市国衙五丁目 |
| 調査期間 | 第一六〇次調査 二〇〇六年（平18）三月～六月 |
| 発掘機関 | 防府市教育委員会・周防国府跡調査会 |
| 調査担当者 | 佐々木達也・杉原和恵 |
| 遺跡の種類 | 官衙跡 |
| 遺跡の年代 | 古代～近世 |
| 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | |

今回の調査地は、周防国府の推定朱雀路の東に接した場所で、近世には、山陽道と朱雀路（南へ下ると港・塩田地帯へ至る主要道）との

交差点として、二本の道標が建つ「辻」であった。古



（防 府）

代から中世にかけての山陽道が国府域のどこを通っていたのかは未解明で、「辻」に関連付けることは早計であるが、調査地は他地域に比べて中世の遺構密度が極端に高く、中世の国